



Kekkaku

結核

▼ 読みたい項目をクリックしてください

Vol. 98 No.1 January-February 2023

原 著 1……若手医師に対する結核研修強化の試み—大分県結核医療体制強化事業 ■小宮幸作他
治療委員会総説シリーズ「結核治療—その5」

7……結核治療の法的背景と治療を完遂させるための支援 ■池上靖彦
抗酸菌検査法検討委員会総説シリーズ

13……利用者の視点から見た抗酸菌症検査の現状と課題 ■網島 優

第97回学術講演会特集 第97回学術講演会の開催報告 ■大崎能伸

教育講演 17……肺 MAC 症での薬剤耐性化と難治化 ■浅見貴弘

23……非結核性抗酸菌感染症管理での感染対策 ■桑原克弘

27……肺結核の微細 HRCT 所見～関係する小葉内構造～ ■伊藤春海

33……高齢者での重症非結核性抗酸菌症の治療—どのような治療をいつまで ■佐々木結花

37……エビデンスに基づいた結核治療法の選択と変更法 ■吉山 崇

会 報 41……定例理事会議事録（2022年度第2回）

会 告 結核・抗酸菌症認定医・指導医および抗酸菌症エキスパートの認定

若手医師に対する結核研修強化の試み

— 大分県結核医療体制強化事業 —

¹小宮 幸作 ¹山末 まり ³瀧川 修一 ²平松 和史
¹門田 淳一

要旨：〔目的〕結核患者数の減少に伴い、若手医師における結核診療の機会が減少している。このことは、結核の早期診断を含めた診療水準の低下につながることを懸念される。本事業では、若手医師が効率的に結核研修を行い、かつ医師としてのキャリア形成を支援することを目的とする。〔方法〕2017年より医学部卒業10年目以内の呼吸器内科医に対し、結核基幹病院において6カ月間の臨床研修を行い、さらに同期間内に臨床研究の実施、その成果を英語論文として発表する。研修の前後で、結核診療に関する臨床能力の自己評価を行う。〔結果〕2017年から2022年の5年間に於いて、10名の若手医師が研修を修了した。臨床研修を通して、結核の診断および治療に関する自己評価能力が有意に向上した。全医師が1編以上の英語論文を発表し、本事業の5年間で和文1編を含む合計17編の臨床研究を国際雑誌に掲載した。〔結論〕若手医師に対する結核研修は効率的に行える可能性があり、同時に臨床研究を通じたキャリア形成も達成可能と考える。結核低蔓延化において、若手医師の結核研修の一つのモデルとなりうることを示された。

キーワード：結核, 研修, 教育, 臨床研究

治療委員会 総説シリーズ「結核治療—その5」

結核治療の法的背景と治療を完遂させるための支援

池上 靖彦

キーワード：発生届，入院勧告，公費負担制度，服薬確認，患者支援

抗酸菌検査法検討委員会 総説シリーズ

利用者の視点から見た抗酸菌症検査の現状と課題

網島 優

要旨：検査の指示を行い報告された結果を利用して診療を行う臨床医として、ユーザーの立場から抗酸菌症検査の日頃からの疑問点や改善希望点について述べた。同定検査においては結核菌と *M. avium* complex (MAC) の核酸増幅検査が同時に行えないことから、多くはないが併発を見逃す可能性があること、また質量分析法の普及により病的意義が不明な菌種が報告されることが増えており、対応に苦慮する相談症例も増加していることを指摘した。結核菌の薬剤感受性試験については、わが国でも耐性遺伝子の検出による遺伝子型試験を普及させ、より速く適切な薬剤選択を可能にすることが今後の増加が予測される耐性結核対応には必要と考える。非結核性抗酸菌の薬剤感受性試験は解釈が難しいことが多々あり、diagnostic stewardshipの面からも結果報告での助言があることが望ましいと考えた。

キーワード：抗酸菌、質量分析法、薬剤感受性試験、diagnostic stewardship

第97回学術講演会教育講演

肺MAC症での薬剤耐性化と難治化

浅見 貴弘

要旨：肺MAC症の標準治療はマクロライド（クラリスロマイシン，アジスロマイシン），エタンブトール，リファンピシンの3剤併用療法で，アミノグリコシドの追加が選択肢となるが，このうちマクロライドはMACに対して唯一単剤で治療効果が示されたキードラッグである。薬剤感受性検査は薬物の治療効果を予測するために実施されるが，MACに対して感受性検査と治療効果の関連が示されているのはクラリスロマイシンとアミカシンのみである。日常診療で用いられるプロスミックNTMの結果はクラリスロマイシンのみ参考にできる。マクロライド耐性肺MAC症は難治で予後が悪く，アミノグリコシドや手術を含めた集学的治療を検討する必要がある。マクロライド耐性菌を生じさせないためにエタンブトールを安全に使用することが重要である。

キーワード：肺MAC症，薬剤感受性，マクロライド耐性

第97回学術講演会教育講演

非結核性抗酸菌感染症管理での感染対策

桑原 克弘

要旨：非結核性抗酸菌症は基本的にヒト-ヒト感染をきたすことはなく，管理上の感染対策は限定的である。しかし免疫抑制宿主や環境汚染など特殊な状況下では医療関連感染のリスクがあり，感染対策が必要となる場合がある。また従来ないと考えられていた，ヒト-ヒト感染が*M. abscessus*で初めて報告され注目されている。最後に，感染対策が必須である結核症を非結核性抗酸菌症と誤認しないために，画像や微生物検査の特性から鑑別診断上の注意点を提示する。

キーワード：非結核性抗酸菌症，感染対策

第97回学術講演会教育講演

肺結核の微細HRCT所見～関係する小葉内構造～

伊藤 春海

要旨：肺結核症に見られる微細病変のHRCTは、肺末梢構造に関する知識を深めるための最適の材料である。対象となる主な肺構造は、気腔と総称される細気管支、呼吸細気管支、肺胞道、肺胞、と共に気腔外の小～細血管である。構造解析には、ほぼ正常の連続薄層スライス肺を用い、実体顕微鏡と標本X線像による観察を併用した。小葉内に発症する肺結核の微細分岐病変部位は、細気管支から肺胞道とその所属肺胞である。今回特に検討したのは、互いに隣接する「肺胞道」と、それを囲む「肺胞群」が構造上どう関係し、そしてそれぞれが示す標本X線像の所見の違いについてである。それに基づき、最新のHRCTの正常肺野の画像について新たな提案を試みた。

キーワード：肺結核微細病変、HRCT、小葉、肺胞道、細血管、標本X線像

第97回学術講演会教育講演

高齢者での重症非結核性抗酸菌症の治療

— どのような治療をいつまで —

佐々木結花

要旨：本邦において肺非結核性抗酸菌症患者数の増加が報告されており，高齢の患者に罹患率，有病率が高いことから，治療介入をどう行っていくか問題となる場合がある。複数の薬剤を同時に開始することから，治療開始のタイミングはきわめて重要である。日本結核・非結核性抗酸菌症学会では診断時に治療開始する場合，経過観察をする場合について報告しているが，75歳以上の高齢者は後者に分類されてはいるものの，進展が速い場合には治療を開始するべきである。高齢者は合併症を有する場合も少なからずあることから，抗抗酸菌薬の有効性だけでなく，副作用や相互作用を考慮し，治療方針を決定する。高齢者において，リファンピシン投与の可否，アミノグリコシド薬の導入についても，今後の知見を集積する必要がある。最も肺非結核性抗酸菌症の罹患率が高いのは70歳代であり，高齢者にどのように治療を行っていくか，今後も検討を継続しなくてはならない。

キーワード：高齢者，非結核性抗酸菌症

第97回学術講演会教育講演

エビデンスに基づいた結核治療法の選択と変更法

吉山 崇

キーワード：結核，治療，エビデンス